

7) 県内の特徴的な動き(平成23年度)

(1) 平成24年度全国和牛能力共進会に向けた取組

平成24年10月に長崎県で開催予定の全国和牛能力共進会は、全国から和牛関係者が集結する大きなイベントです。県では、本県の次世代の種雄牛や生産者の飼養技術をPRする絶好の機会と捉え、調教技術や和牛審査技術者の養成、超音波による肉質診断のほか、関係者で編成する指導チームによる出品候補者への技術指導などにより、上位入賞を目指しています。



超音波肉質診断



血液検査による栄養指導

(2) 獣医師確保対策の実施

県では、平成22～23年度事業として、獣医系大学を目指す学生の増加、獣医師への理解度向上を目的として、「あおり食産業を守る獣医師確保緊急対策事業」を実施しています。

獣医系大学生への修学金給付、高校への出前講座、獣医系大学生との交流、最新機器を活用した技術研修を実施するとともに、平成24年1月に「青森県獣医師職員確保プラン」を策定しました。



獣医系大学生への職務紹介



(3) 十和田市公共牧場再生協議会の活動

上北地域では、十和田市公共牧場再生協議会が組織され、地域の8牧場の機能分担や作業委託等による経営体質強化に向けて、平成23年度は家畜運搬車の導入による牧場間の家畜移動、低コスト草地更新技術試験の実施、肥料・資材の共同購入、シンポジウム開催等に取り組んでいます。



奥瀬牧場と放牧牛



牧場間の家畜運搬車

(4) キャトルセンター整備による肉用牛増頭の取組

三八地域では、五戸町営ブドロク放牧場を核とした地域一貫生産の推進による”あおり倉石牛”のブランド力の強化、生産拡大を図るため、畜産担い手育成総合整備事業を活用し、草地造成や周年飼養施設（キャトルセンター）等の整備に取り組んでいます。



ブドロク牧場の草地造成



周年預託施設

(5) 「深浦牛」「市浦牛」の地域銘柄化の取組

西北地域では、平成22年度から[深浦牛][市浦牛]の地域銘柄化に向けた取組を進めています。PR用の販売促進資材の製作や試食会の開催等により、牛肉の販売機会が拡大したほか、23年度からは宿泊施設等との新たな取引が始まり、地元住民や観光客への提供が始まっています。また、子牛の品質向上のための各種研修会や個別指導等にも取り組んでいます。



地域での販売促進活動



地域銘柄牛等を使った料理の提供

(6) 畜産物の放射性物質の検査の実施（平成24年2月末現在）

県では、福島第1原子力発電所事故を受け、県産農林水産物の放射性物質検査を行っています。畜産関係では、県内でと畜される県産牛について、平成23年8月17日からの抽出検査を経て、11月9日から県内でと畜されるすべての県産牛を対象に、県内4か所で検査をしています。牛乳については、県内2か所の集乳場所の原乳を概ね1週間に1回検査をしています。牧草については、県内4地域で1番～3番草までの検査を行いました。これらの検査の結果、いずれも、暫定規制値を超える放射性物質は検出されていません。



牛肉の放射性物質検査



検査用原乳の採取